



# 研究所

明治学院大学 社会学部付属研究所

〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37 TEL03-5421-5204・5205

32号

## たごより

メールアドレス [issw@soc.meijigakuin.ac.jp](mailto:issw@soc.meijigakuin.ac.jp) ホームページ <http://soc.meijigakuin.ac.jp/fuzoku/>

### contents

- 1 所長あいさつ**  
社会学部付属研究所所長  
久保 美紀
- 2 調査・研究部門**
- 3 相談・研究部門**
- 4 学内学会部門**
- 5 市民講座報告 / 研修会案内**
- 6 2018年度社会学部付属研究所  
プロジェクトの紹介**
- 7 2018年度社会学部付属研究所  
スタッフの紹介**

**1** 本年4月に研究所所長を拝命し、周囲の心配をよそに、どうあっても時は流れていき、早4ヶ月が過ぎようとしています。就任にあたって、抱負を述べるなどという大それたことはできず、心もとない限りですが、ご支援をお願いいたします。

研究所のルーツは、1956年に開設された「明治学院大学児童相談所」にあり、その後1962年に設置された「家庭福祉研究所」が1970年に改組され、現在の社会学部付属研究所となり、発展してきました。時代とともに、そして、港区という地域とともにあった研究所は、社会状況が生み出す諸課題に取り組み、研究と実践を循環させながら活動を展開してきました。今夏、所内のプレイルームの改修工事が行われ、秋には多目的な空間になる予定です。私の手元に、いつごろのものか不明ですが、現在の「相談・研究部門」作成のリーフレットがあり、それには、「児童・家

庭福祉相談のご案内」とのメッセージが記されています。プレイルームの改修は、研究所の活動のあらたな展開を示唆しており、研究所がこれからどのような歴史を刻むことになるか、期待が膨らみます。

さて、近年「8050（はちまるごーまる）問題」と称される事象が、社会的課題としてクローズアップされています。それは、80代の親と50代の単身無業の子どもが暮らす世帯が、経済的困難に陥り、外界との接点を失い、支援につながらないまま孤立してしまう状況を指しています。そのなかには、親の介護のために離職を余儀なくされ無職になった子どもが、介護と経済的困難という課題を抱える場合がある一方で、特徴的に取り上げられるのが、50代の子どもがひきこもり状態にあり、80代の親がその子どもの世話をしているということです。従来、

(中面へ)

不登校などがきっかけでひきこもり状態になり、学齢期を過ぎてもその状態にある人の存在が確認されていましたが、就職活動のつまずきから無業のままにある中高年層のひきこもりが顕在化してきたのです。ひきこもりの長期化・高年齢化は、親の高齢化を伴い、経済的困難や疾病、介護問題が重なり、親子は複合的な課題を抱え、社会的孤立に追い込まれることが問題視されるようになりました。

2018年1月に、札幌市内のアパートの一室で、ふたり暮らしの82歳の母親と52歳の娘が遺体となって発見されたことが報道されました。3月5日付の北海道新聞の記事によれば、この世帯の収入は母親の年金のみで、生活保護や福祉サービスを利用しておらず、娘

は高校卒業後、就職したものの、人間関係に悩んで退職し、ひきこもり状態になったということです。そして、ふたりの死因はいずれも低栄養状態による低体温症で、母親が先に亡くなり、数日後に娘が亡くなったとみられるということです。ふたりがどのような気持ちで暮らしていたのかと思うと、胸が痛みます。

この親子に象徴される「8050問題」は、社会的不正義の状況といえるのではないかでしょうか。こうした状況に置かれている人たちのリアリティに寄り添い、その声なき声を聴き、見えないものを見る感性と知性を磨いていかなければならないという思いを強くしています。(所長:久保美紀)



を含めて11名のメンバーを組織する5件のプロジェクトが行われます。詳しい内容につきましては、本号の「プロジェクトの紹介」をご覧ください。社会学・社会福祉学の両分野にまたがり、理論研究、歴史研究から実態調査まで多岐にわたるプロジェクトが予定されています。その中にはすでに進行中の科研費共同研究の補助プロジェクトとして位置付けられているものもあります。

昨年度2017年度につきましては、「宇宙倫理学の基礎研究」(代表稻葉振一郎)、「歴史社会学的日本研究の国際的対話に向けた基礎作業」(代表石原俊)、「性的マイノリティーへの寛容性の質的研究」(代表石原英樹)、「関係流動性の時系列的变化に関する検討」(代表鬼頭美江)、「福島原発事故避難者の帰還について考える—避難者の生活課題の分析を通して—」(代表和氣康太)、「日系新宗教の海外布教」(代表渡辺雅子)の6件のプロジェクトが行われました。これらのプロジェクトの成果につきま

しては、次号『研究所年報』(2019年2月刊行予定)やその他学術雑誌等を通じて、今年度中に公開される予定です。

「特別推進プロジェクト」は、当研究所創立以来の長い共同研究の歴史を踏まえ、21世紀に入り改めて、学外の研究者をも交えての大規模な共同研究を、3年程度を目安に、科研費など外部資金の獲得をも念頭に置きつつ、継続して行っています。今年度は、2017年度スタートのプロジェクト「内なる国際化に向けた生活保障システムの再編」が2年目に入りました。引き続き浅川達人、阿部貴美子、茨木尚子、大瀧敦子、金成垣、坂口緑、高倉誠一、柘植あづみ、野沢慎司、平野幸子、藤川賢、元森絵里子、安井大輔、米澤旦、石原英樹の他、三輪清子も加わって進行しております(鬼頭美江は育児休暇中)。今後ともご指導ご支援をお願い申し上げます。

(主任:稻葉振一郎)

## 研究所各部門から

### 2 調査・研究部門

「調査・研究部門」は本学社会学部スタッフを中心とした社会学・社会福祉の調査・研究プロジェクトを組織するのがその主任務です。

現在のところ当研究所における研究プロジェクトには、単独ないし少人数のメンバーによる単年度プロジェクトである「一般プロジェクト」と、研究所全体での大規模な共同研究である「特別推進プロジェクト」があります。

「一般プロジェクト」は社会学部スタッフの個人的イニシアティヴに基づく研究(学内外の研究者との共同研究を含む)を支援するための枠組みであり、科研費等学外の資金獲得による、より本格的な研究への準備研究、あるいは既に進行中のそうした研究プロジェクトの補助研究となることが期待されています。

今回、2018年度には、学外の参加者

### 3 相談・研究部門

相談・研究部門は、地域が人々にとってより住みやすい場所、そして居場所になるように、市民の皆さまの自主的な地域活動への支援や生活課題に関する研究を行っています。私たちは相談活動、講座・研修、研究を柱に、地域で暮らす市民やボランタリーな活動を行う団体がつながり、地域づくりの担い手となる方々のスキルアップを図る機会を提供するなど、地域力の向上に向けた支援活動に取り組んでいます。

2017年度は、社会的孤立の防止をメインテーマに活動を進めてきました。社会的孤立といつても、独居高齢者、若年者のひきこもりなど様々な孤立の形があります。2017年度は、「地域の多様な家族が孤立しないために私たちができること」に焦点を当て、家族の視点から、分野を横断した多様なアプ

ローチを要するひきこもりの課題について取り組みました。また、これまで実践してきた子ども・子育て支援活動に加え、新たな活動として、子ども食堂の実践者との連携・支援を図りました。そのなかで、子ども食堂が生活困窮への対応にとどまらず、子育て家庭の孤立防止と多様な住民の居場所作りに貢献していること、多世代交流の場としての機能を発揮していることが明らかになりました。講座・研修活動としては、セクシュアル・マイノリティやひきこもる若者を理解し、支援を検討するための学習会を2度にわたって開催し、市民やソーシャルワーカーを含めた地域創りの担い手の皆さんと共に、多角的な視点で社会的孤立の問題について検討しました。また、今回で31回目となる社会福祉実践家を対象とした臨床理論・技術研修会では、当事者参画によるカンファレンスについて学びました。

これまでの知見を礎に、2018年度は、主に「住」に焦点を当てて社会的孤立の課題に取り組みます。住まいの問題は、私たち相談・研究部門にとっても新たな研究課題となります。そのため、港区の域を超えて、他区で行われている先進事例の調査も含め、研究活動を開始しています。また、「内なる国際化」をテーマに社会学部で取り組んでいる特別推進プロジェクトにも引き続き参画し、外国にルーツをもつ家族や多文化・多言語家族への支援を見い出すことを目的にヒアリングを行っていきます。今年度の研修会や学習会については、現在、企画を進めているところで



▲2017年度第1回 地域創り担い手学習会

すが、これまで参加いただいた方々のご要望を踏まえて計画していきますので、今年度も多くの方々に参加いただき、共に成長していく機会を作つていければと思っています。

(主任：明石留美子)



## 4 学内学会部門

明治学院大学社会学・社会福祉学会は、社会学部生・卒業生・教員によって構成される組織です。文字通り、学生組織である学生部会と、卒業生から構成される卒業生部会が様々な活動を企画し、実施しています。ここではそれらの活動の一部をご紹介します。

●6月には恒例の総会があります。前年度の事業報告と今年度の事業計画及び予算を決定し、その後に特別講演会と懇親会を開催します。2018年度は6月16日に松田妙子氏（NPO法人せたがや子育てネット代表 本学社会福祉学科卒業生）による「支援の受け手が支え手にもなる地域社会～子育て支援の実践現場から～」と題した講演が行われました。本学部の卒業生には松田氏のように地域社会で着実に活躍されている方がいらっしゃることを教員としても嬉しく感じます。

●秋には学生部会の先輩たちが二年生のゼミ選びをサポートするイベント「ゼミサロン」（社会学科）が行われます。将来の進路に迷っている学生にとっては、大変参考になる催しだと好評です。

●11月に行われる研究発表会は一番学



▲2018年度講演会

内学会らしいものといえるかもしれません。学部生・大学院生・卒業生が、個人やゼミ単位でこれまでの研究成果を報告する場です。ここ数年は卒業論文を作成中の学部生が「腕試し」として発表することも増えています。昨年度は学生75名、教職員11名、卒業生6名、計92名の参加がありました。

●学内雑誌『Socially』は5月から半年以上の間、学生が中心となり教員のサポートにより企画、取材、編集を行い、年度末に刊行されます。内容は学内学会員による投稿論文の掲載、ゼミ紹介、卒業生へのインタビューなど多岐にわたっています。編集作業を通じて学生たちはたくさんのこと学べる（大変だけど！）とのことです。

●年度末には卒業生部会主催の講演会が行われています。昨年度3月21日には「若者の政治参加・社会参加を促す取り組みを」をテーマに、講演者横尾俊成氏（NPO法人グリーンバード代表、港区議会議員）、後藤寛勝氏（NPO法人僕らの一歩が日本を変える。代表理事）により若者の社会参加、社会貢献を通じて社会を変えていくお話をうかがいました。

以上のように学内学会は、社会学部の学生、教員、卒業生が一緒になって企画から参加して作り上げる貴重な場となっています。近年学生部会の人数が減る傾向にあります。クリアすべき問題は他にもあります。どうか社会学部関係者のご協力をお願いいたします。

(主任：石原英樹)



▲学生部会

## 5 市民講座報告 / 研修会案内

2017年度も、「社会的孤立」の課題に取り組む担い手のための「地域創り担い手学習会」を開催しました。メインテーマ「地域の多様な家族が孤立しないために私たちができること」の下、第1回「セクシュアル・マイノリティの暮らしの困りごと～まずは知ることから～」、第2回「ひきこもる若者 / オトナの困りごと～多様なアプローチを手がかりに～」のテーマでした。第1回は、遠藤まめさん（「やっぱ愛ダホ！idaho-net」代表）を迎えて、7月12日（水）に開催、50名の参加を得ました。高校生の参加もあり、若い人たちの関心の高さが窺えました。第2回は、多様なアプローチを実践する4団体（NPO法人ピアサポートネットしぶや石川隆博さん、NPO法人教育サポートセンターNIRE中塚史行さん、公益社団法人青少年健康センター倉光洋平さん、しんじゅく若者サポートステーション桜山清子さん）を迎え、11月29日（水）に開催、48名の参加を得ました。様々な切り口の積み重ねられた実践を学ぶ貴重な機会となりました。

2017年度の「港区地域こぞってネットワーク会議（6月23日（金）開催）」と「港区地域こぞって子育て懇談会（1月27日（土）開催）」は、港区立子ども家庭支援センターと一般社団法人みなとこぞってネットワーク共催の2回目。相談・研究部門は後方支援として、企画・運営に協力しました。これまでになく乳幼児保護者の参加多数の懇談会となりました。報告書をご希望の方は社会学部付属研究所までご連絡ください。



▲ 2017年度第2回 地域創り担い手学習会

## 「第32回社会福祉実践家のための臨床理論・技術研修会」 総合テーマ 「ソーシャルワーカーの成長に向けて、共に歩むグループスーパービジョン」

日時：2018年10月20日（土）

10:00～16:30

内容：

- 基調講演（10:00～12:00）  
講師：山崎美貴子  
(本学名誉教授 / 元神奈川県立保健福祉大学学長)
- ワークショップ（13:00～16:00）
- ネットワーク懇親会  
(16:00～16:30)

会場：明治学院大学白金キャンパス

● 連絡先

明治学院大学社会学部付属研究所  
〒108-8636 港区白金台1-2-37  
Eメール issw@soc.meijigakuin.ac.jp  
TEL 03-5421-5204・5205  
FAX 03-5421-5205



▲ 2017年度社会福祉実践家のための臨床理論・技術研修会

## 6 2018年度社会学部付属研究所プロジェクトの紹介

### ■一般プロジェクト

- 宇宙倫理学の基礎研究  
(代表 稲葉振一郎)
- 歴史社会学の日本研究の国際的対話  
Trans-Pacific Workshop を拠点として  
(代表 石原 俊)
- 福祉的労働機会の提供団体に対する組織特性と効果についての組織社会学的研究  
(代表 米澤 旦)
- 福島原発事故避難者の帰還について考える（II）—避難者の生活課題の分析を通して—  
(代表 和気康太)
- 地域福祉計画における「地域福祉力」の評価に関する研究  
(代表 椿原美樹)

### ■特別推進プロジェクト

内なる国際化に向けた生活保障システムの再編



## 7 2018年度社会学部付属研究所スタッフの紹介

所長	久保 美紀
調査・研究部門主任	稻葉振一郎
相談・研究部門主任	明石留美子
学内学会部門主任	石原 英樹
所員	浅川 達人
所員	八木原律子
所員	石原 俊
所員	三輪 清子
所員	安井 大輔
所員	高倉 誠一
所員	清水 浩一
研究調査員（調査・研究部門）	阿部貴美子
ソーシャルワーカー（相談・研究部門）	角田 慰子
副手	平野 幸子
教学補佐	高橋 由加
学内学会部門事務担当	込宮美沙子

